



栗原 志歩
(ガラス)

「ガラスが好きすぎる！」
気づけば
何かに導かれるように
ガラスの世界へ。



夏の風を感じる模様と
涼しげな風鈴♪

「小さい頃からガラスが好きすぎて：ガラスに怖くて飛び込めなかったんです。」
第一声でそんなことを話してくれた。
そんな栗原さんは、高校卒業後ガラスではなく、岐阜県にある木工の学校に進んだ。しかし、やはりなんか違う：そんな時「お前は自分が木が向いて無いと思ってるだろ。そうじゃないくて、お前が木と向いてないんだ。」
近くで見えていた先生から、そんな言葉言われた。
「そうか。自分がちゃんとガラスと向き合えばやれるかも！」
木工を辞め、大学へ入学。
ついに大好きだったガラスの世界へ進む事になる。

大学卒業後、バイトをしながら工房のアシストを始めた。
しかし、ガラスは好きだが生活するとなると、とても費用もかかる。本気でガラスをやっていくか悩み、一度ガラスから距離を置くことになった。
しかし、そんな中でも展示をしてくれないか。など周りからの応援の声は多かった。
自分と向き合い、勇気もなく踏み出せない自分に一度区切りを付け、一回きちんとやってみようか：
「よし！もう好きなことをやろう！お金も考えずやりたいことをやってみよう！」
そう気持ちを振り切った。
そして実家の茨城に工房を作り移住。今ではグループ展やギャラリーやお店で展示販売するなど、一年中フル稼働している。



まさに水滴。
どこまでも透明。

生活を変えて今年の夏で二年が経つ。
「正直、一番好きなのは陶器なんですよ。ガラスは自分の好きな表情以外に興味が無いんです。」
「なので、自分の好きなガラスの表情をずっと探しているという行為をしています。」そう語ってくれた。
好き過ぎるものと真剣に向き合い、思い切ってガラスに飛び込み、今では多くの人の縁で生活ができています。しかし、初めてあった「好きすぎて怖い」と言う感情は、もしかしたら今でも残っているのかもしれない。
そんな栗原さんの作る作品は、繊細なガラスの中に、キラキラ光るどこまでも透明な美しい世界が広がっている。



ガラスシェードのソケットを
付ける為の作業。
割れないように... そっと...

